

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科等名	国語
研究課題	「話すこと・聞くこと」における、主として他者とのコミュニケーションの側面から思考力、判断力、表現力等の効果的な育成に関する学習・指導方法及び学習評価の工夫改善				
学校名 (生徒数)	ほっかいどうりつななえこうとうがっこう 北海道立七飯高等学校 (328)				
所在地 (電話番号)	0138-65-5093				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.nanae.hokkaido-c.ed.jp/">http://www.nanae.hokkaido-c.ed.jp/</a>				
研究のキーワード	「話すこと・聞くこと」、単元間の系統的指導、総合的な探究の時間、ルーブリック、パフォーマンス評価				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話すこと・聞くこと」の単元を三つ設定し、系統性を意識して指導することができた。</li> <li>○国語総合で育成した資質・能力が「総合的な探究の時間」においてどう発揮されるのかを明らかにし、発揮する場面を意識して「総合的な探究の時間」の言語活動を位置づけた。</li> <li>○単元の最初にルーブリックを提示し、見通しを持たせ、単元内における生徒自身の成長を自己評価できるようにするよう機能させることができた。</li> <li>○学習指導要領の指導事項を基に評価規準を設定し、単元の最初に評価基準（ルーブリック）を提示することで、評価の妥当性・信頼性を高めることができた。</li> </ul>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

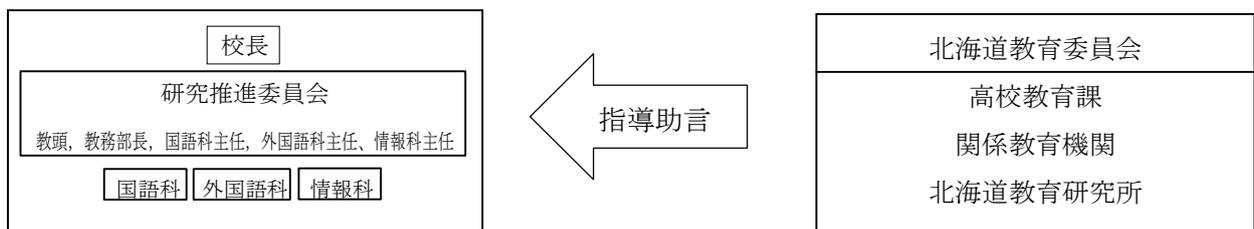
実社会に必要な「話すこと・聞くこと」で育成する言語能力を身に付けるための学習指導及び学習評価の在り方に関する研究

(2) 研究主題設定の理由

実社会において、主体的に関わり、他者と協働して課題を解決していくためには、コミュニケーション能力の育成が必要不可欠である。本校生徒においても、他者の話を正確に聞き取って内容を的確に理解・判断したり、論理的に思考し、表現する力を身に付けさせたりすることが重要である。

こうしたことから「話すこと・聞くこと」で育成する言語能力を身に付けさせる授業及び評価の改善を図り、本校生徒の確かな学力の育成と学習指導及び評価の改善に資することをねらいとして、本研究課題を設定した。

(3) 研究体制



#### (4) 2年間の主な取組

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間学習指導計画の作成（令和2年3月）</li><li>・教科調査官との研究の進め方についてのオンライン打合せ（令和2年9月）</li><li>・コミュニケーション（話すこと・聞くこと）についての生徒・教職員アンケートの実施（令和2年9月）</li><li>・教科調査官による視察訪問指導（令和2年12月）</li><li>・育成を目指す「話すこと・聞くこと」の資質・能力の設定と次年度（令和3年度）の年間計画への「話すこと・聞くこと」単元の配置（令和3年1月）</li><li>・教育課程研究指定校事業研究協議会オンライン発表（令和3年2月）</li><li>・令和2年度の取組のまとめ（令和3年2月）</li></ul>
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・「話すこと・聞くこと」の単元開発（令和3年4月，7月，9月）</li><li>・指導事項に生徒の実態を加味した評価規準・基準の作成（令和3年4月，7月，9月）</li><li>・国語総合と総合的な探究の時間との関連を示す「単元配列表」の作成，検証，改善（令和3年4月，7月，9月）</li><li>・コミュニケーション（話すこと・聞くこと）についての生徒アンケートの実施（令和3年4月，12月）</li><li>・単元の学習前後の生徒の変容の把握（8月，10月，12月）</li><li>・教科調査官による視察訪問指導（令和3年11月）</li><li>・教育課程研究指定校事業研究協議会オンライン発表（令和4年2月）</li><li>・令和3年度の取組のまとめ（令和4年2月）</li></ul>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ア 「話すこと・聞くこと」に係る単元の系統的指導について

「聞く」単元，「話す」単元，「話し合う」単元がそれぞれ独立せず，相互に関係する資質・能力であることを認識させるため，キャッチフレーズによる意識付けと単元構成や指導を工夫した。

#### イ 総合的な探究の時間との関連を意識し，実社会・実生活に生きて働く言語能力への高めるための指導方法について

「総合的な探究の時間」との関連を明文化するために「単元配列表」を作成した。「総合的な探究の時間」において行う言語活動が，「国語総合」で育成した「話す・聞く」能力を発揮する場面となるようにした。

#### ウ ルーブリックの提示と活用の工夫による学習活動について

本研究は，「話すこと・聞くこと」の領域の単元であるので，ルーブリックが必要になる。そこで，ルーブリックを提示するタイミングとその方法，単元の中で効果的な活用方法について考えた。

エ 学習指導要領の指導事項を基にした評価規準と、妥当性・信頼性を高めるパフォーマンス評価について

学習指導要領の指導事項を基に評価規準を設定し、恣意的な評価にならないようにした。そして、単元の冒頭に評価基準を提示することで、生徒が評価基準や方法を理解した上で臨むので、評価結果に対して納得が得られ、評価の妥当性・信頼性を高めることにつながった。

## (2) 具体的な研究活動

ア 「話すこと・聞くこと」に係る単元の系統的指導について

「話すこと・聞くこと」の領域に係る単元として、「内容の理解と構成の把握を意識して落語を聞こう」、「聴衆を意識してプレゼンテーションをしよう」、「聴衆を意識してディベートをしよう」の三つを設定した。また、三つの単元を通して身に付ける言語能力が「自ら思考し、表現する（話す・聞く）言語の力」とした。最初の単元に入る際、今後の「話すこと・聞くこと」の領域に係る単元の展望を説明し、最後の単元の学習が終了したときに、「相手を意識した言葉のキャッチボールができる力」の定着が目標であることを伝えた。そして、一つ目の単元では、「相手の言葉をキャッチする力」、二つ目の単元では「自分の言葉を相手の胸元へ投げる力」、三つ目の単元では、「言葉のキャッチボールをする力」と、「話すこと・聞くこと」の領域の中で各単元がどのような位置にあるのかを把握させ、生徒自身の学びを客観視させた。

イ 総合的な探究の時間との関連を意識し、実社会・実生活に生きて働く言語能力への高めるための指導方法について

「国語総合」において育成した「話すこと・聞くこと」の資質・能力が「総合的な探究の時間」においてどのように発揮されるのかを明らかにするために、「単元配列表」を作成した。まず、「総合的な探究の時間」において、「コミュニケーション探究」を行い、傾聴、相談、激励、言語・非言語による意思疎通などのパフォーマンスを行い、コミュニケーションの基盤を作った。そして、「国語総合」において、「話すこと・聞くこと」の能力の育成を行い、「総合的な探究の時間」における「学問探究活動」で発揮する場面を設定した。具体的には、「聞く」能力を、「課題設定」の前段階である「大学見学」や「体験型相談会」における講師の講話を聞く際に発揮する。「話す」能力を、「表現」の段階で行う「グループプレゼンテーション」で発表する際に発揮する。「話し合う」能力を、「整理・分析」、「まとめ」の際に行うグループワークで発揮する。これらの関連を可視化し、「国語」で育成した「話す・聞く」能力を活かす場面を設定し、実社会・実生活に生きて働く言語能力へと高めるための工夫を行った。

ウ ルーブリックの提示と活用の工夫による学習活動について

3つの単元の各1時間目に、単元の展開と評価基準（ルーブリック）を生徒に提示し、どの活動で何を看取るのかを説明し、学習の見通しを持たせた。また、各単元において、2度パフォーマンス課題に取り組む場面があり、それぞれ自己評価を行わせた。その自己評価は、評価基準（ルーブリック）を具体的にしたチェックリストであり、「よくできた」、「できた」、「できなかった」の3段階で評価をつけさせた。この3段階は、評価基準（ルーブリック）

のA, B, Cと対応する。また、単元の中で2度パフォーマンス課題を設定することで、生徒自身に単元の学習内に成長したことを実感できるようにした。

エ 学習指導要領の指導事項を基にした評価規準と、妥当性・信頼性を高めるパフォーマンス評価について

評価規準は、学習指導要領の指導事項を基に作成した。その際、その指導事項と学習活動の一貫性について吟味し、単元指導計画を作成した。指導と評価の一体化が図られるようにした。また、学習活動に入る前に、評価規準を提示することで、生徒が評価結果に対して納得が得られ、評価の妥当性と信頼性を高めることができた。

### 3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 年間を通して育成を目指す資質・能力につながるキャッチフレーズを生徒と共有することで、各単元のつながりを意識して系統的に指導することができた。
- 国語科で育成した「話す・聞く能力」を実社会・実生活に生きて働く言語能力へと高めるために、総合的な探究の時間とのつながりを明確にした「単元配列表」を作成することができた。
- 各単元の冒頭に単元の学習の流れとルーブリックを提示することで、評価に対する妥当性・信頼性を担保することができ、生徒が学びの見通しをもって主体的に学習に取り組むことができた。
- 単元にパフォーマンスの機会を複数回位置づけるとともに、次のパフォーマンスにつなげるために自己評価や相互評価を行う場面を設定したことで、生徒が、自分の課題に気づき、自ら課題の改善を行うことができた。
- 「話すこと・聞くこと」の単元の指導の研究について、総合的な探究の時間等の学習場面において、国語科で育成した「話すこと・聞くこと」の領域の資質・能力がどのように発揮されているのかを検証することができなかった。
- 「話すこと・聞くこと」の学習評価の研究について、各単元における学習評価の場面や方法を検証することができなかった。

### 4 今後の取組

- (1) 国語科において育成した言語能力が、「総合的な探究の時間」において発揮されていることの検証を行い、カリキュラム・マネジメントの一層の充実を図る。
- (2) 「話すこと・聞くこと」の各単元における学習評価の場面や方法の検証を継続する。